

1 ビジョン策定の趣旨

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を経て、社会が大きな転換期を迎えていることに加え、燃料や原材料価格の上昇に伴う物価高騰、気候変動に伴う自然災害の激甚化・頻発化など、私たちの日常生活や経済活動に大きな影響を与える様々な出来事が起こっています。

また、グローバル化の拡大、デジタル化の加速など、様々な物事の変化が激しく、将来が容易に見通せない時代の大きな変化の中にあります。

こういった状況の中、将来への不安や憂いを払拭し、未来への期待感や本県への誇りを持ち、新しい長崎県を築いていきたいとの思いから本ビジョンを策定します。

本ビジョンは、県内外の多方面から選ばれる長崎県の実現に向けて、様々な立場の皆様が思いを一つにして、有機的に連携しながら取組を進めるための旗印とするため、今後重点的に注力する分野の概ね10年後のありたい姿とその実現に向けた施策の方向性をわかりやすくお示しするものです。

2 現状、課題

1 時代の潮流

従来の大量生産・大量消費型の社会経済システムが多くの深刻な問題を引き起こしている中で、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、公平で持続可能な社会や幸福を重視する新たな社会経済システムへの転換が進められつつあります。

また、グローバル化の拡大、デジタル化の加速やカーボンニュートラル実現へ向けた社会・経済のグリーン化などの影響により、人々の意識や行動が多様化するとともに、生活の質や精神的な豊かさを重視する傾向が高まっています。

2 長崎県の現状と課題

本県は、離島・半島地域を多く有し、人口減少や少子高齢化が全国よりも早く進んでいます。65歳以上の高齢者人口は全国より約15年早い2025年頃にピークを迎え、2040年頃には15歳から64歳の生産年齢人口は県人口の5割を下回ることが予想されています。

こうしたことから、労働力不足や地域経済の縮小、公共交通・地域コミュニティの維持・確保の問題など様々な影響が全国に先駆けて顕在化することが懸念されています。

3 長崎県が持つポテンシャル

本県は、変化に富んだ美しく豊かな自然、中国や西洋の文物や文化を受け入れながら多くの人と交流し栄えてきた歴史と個性豊かな文化、日本の本土最西端に位置しアジアに最も近い地理的優位性など、多くのポテンシャルを有しています。

また、西九州新幹線開通に伴う駅周辺の再整備、I Rの誘致、スタジアムシティプロジェクトなど「まち」の佇まいが大きく変わるプロジェクトが進展しています。

加えて、大手企業の研究開発拠点の立地が進むとともに、「半導体関連産業」「航空機関連産業」「海洋エネルギー関連産業」といった成長分野における新たな動きなど、産業構造に大きな変化が生じており、まさに100年に一度の変革の時期を迎えています。

未来大国

世界的な資源・エネルギー・食料需要の増大や環境問題の深刻化を受けて、循環性の高い経済システムへの転換による持続可能な社会づくりが求められている中、本県においても、こうした変化を踏まえて果敢にチャレンジしていく必要があります。

不確実性が増し、依然として厳しい社会経済状況が続く中、複雑かつ多様化する課題を乗り越えて明るい未来をつくっていくために、行政においては、これまでの縦割り主体から部局横断的な取組を強める必要があるとともに、県民の皆様をはじめ様々な立場の方々が有機的に連携していくことが大切です。

離島・半島地域を多く有している本県は、人口減少や少子高齢化が全国よりも早く進み、労働力不足や地域経済の縮小など様々な影響が懸念されている「課題先進県」とも言えます。しかし、見方を変えれば、遠からず同じような課題に直面するであろう他の地域に先駆けて、課題解決に向けた最先端技術の社会実装などを進めていくチャンスがあると言えます。

そして、本県には、多様で豊かな自然、そこから生まれるおいしい食物、そして世界と交流しながら築いてきた歴史や文化、ホスピタリティ溢れる温かい人と豊かなコミュニティなど、誇れる資源が数多くあります。

鎖国時代、「DEJIMA」を通して世界に開かれた日本の窓であった長崎には様々な文物が伝来し、それらが混ざり合って生まれた新しい知識等を求めて希望や期待を抱いた人々が多く集まり、日本中に新たな知識や技術、文化等が広がっていきました。

そうした長崎のDNAをいまに蘇らせ、住む人、訪れる人、長崎から羽ばたいていく人、長崎に戻ってくる人、挑戦や失敗、多様な価値観、それぞれの幸せのあり方、すべてに寛容で活気あるまち、誇りをもって国内のみならず世界に存在感を示す「未来大国」を一緒につくっていきましょう。

4 未来大国の実現に向けて重点的に取り組む主な分野

● こども

長崎県の明るい未来を築いていくために、子どもたちへの投資を未来への投資と捉えたうえで、本県の将来を担う子どもたちが安全・安心に健やかに成長し、その能力と可能性を高めることを積極的に支援して、社会での多様な活躍につなげていきます。

● 交流

海外との古くからの交流によって培われた異国情緒あふれる街並み、有形・無形の文化や多くの人を魅了する美しい自然、個性あふれる離島など、県内外の人を惹きつける多様な資源を有するポテンシャルを活かし、交流人口拡大・地域活性化につなげていきます。

● イノベーション

カーボンニュートラル実現に向けて、海洋エネルギー関連産業や半導体関連産業といった新しい時代に対応した産業を振興するとともに、未来を創る新たなサービスの創出や先端技術の社会実装を進め、地域の活力へつなげていきます。

● 食

地形や天候等の特性を活かした農産物や豊かな海で育まれた水産物などの魅力発信により需要を創出し、美味しくて多様な「食材」を世界中に届けるとともに、ご当地自慢の料理として誇れる「食」を県内各地で提供し人を呼び込み、食した人が笑顔になる「美味しい！長崎」の実現につなげていきます。

● 健康

人生100年時代を迎える中、誰もがより長く元気に活躍できる社会づくりが求められていることから、いつでもどこでも医療・介護サービスが受けられる環境づくりを全国に先駆けて進めることなどにより、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる社会の実現につなげていきます。

5 主な分野のありたい姿とその実現に向けた施策の方向性

1 こども

こどもが夢と希望を持って健やかに成長していく

● ありたい姿

- ▶ 働き方や交通・生活利便性の改善でゆとりが生まれ、こどものための、こども時間※1が1時間プラスされています。
- ▶ こどもが安心して笑顔で過ごせる、こども場所※2が概ね徒歩圏内にあり、社会全体で応援しています。
- ▶ 「デジタル×リアル」で多様なつながりを創り出し、こどもたちの豊かな学びが実現しています。

● ありたい姿の実現に向けた施策の方向性

- 働き方改革による「共育て※3」時間の確保と推進
- 職住近接、育住近接などコンパクトな子育て生活圏の整備
- こどもまんなか社会※4を目指し、子育てを応援する機運の醸成
- こども食堂など、こどもが快適に過ごせ、こどもの安心を守る、こども場所の充実
- こども場所の設置促進等の仕組みづくりに向けた民間企業・団体等との連携
- 遠隔教育センターの開設による小規模校等への多様な学びの提供
- 多様なこどもたちに対応するための、メタバースなどのデジタル技術を活用した学びの場の創出や居場所づくりの充実

※1 こども時間：こどもと一緒に過ごすなど、こどものために使う時間

※2 こども場所：こどもたちの居場所・遊び場や子育て世帯などへの各種支援拠点等

※3 共育て：男性の育児関連時間を増やすなど夫婦でこどもを育てること（ワンオペからの脱却）

※4 こどもまんなか社会：こどもや若者の視点で、その最善の利益を第一に考える社会

2 交流

人、自然、文化などの魅力に惹かれた人が集い、賑わう

● ありたい姿

- ▶ 世界中から国際都市として認知され、欧米豪をはじめ世界各地から外国人観光客や留学生が訪れ、まちが活気に溢れています。
- ▶ 日本中・世界中のノマドワーカー※₁が集まり交流する日本一のワーケーションランドが誕生しています。
- ▶ 釣りやアニメなど様々なジャンルの聖地、本場、拠点として、県内各地に多くのマニアが集っています。

● ありたい姿の実現に向けた施策の方向性

- 付加価値の高い魅力あるインバウンド向けの観光コンテンツづくりやPR、外国人受入体制整備の推進
- 欧米豪をはじめとする世界各地からのクルーズや国際航空路線の誘致強化
- 欧米諸国を中心に、これまでの歴史等を活かし、文化・スポーツ、観光などの面において、新たな交流・連携関係の構築促進
- 企業や個人のニーズに応じた魅力的なワーケーション環境や観光コンテンツの充実
- 世界中のノマドワーカーが安心して訪れ楽しめる環境整備の推進
- 本県の自然環境や強みを活かし、多くのマニアが集う素材を選定
- 市町等とともに、マニアへのPRや関係者への支援を実施し、観光コンテンツに磨き上げ
- 聖地化、本場化による交流人口の拡大を県内各地で推進

※1 ノマドワーカー：特定の組織や会社に恒久的には属さず、手掛ける仕事内容や顧客の所在地に応じて居住地や仕事場を変えるなど、柔軟に働く者

3 イノベーション

未来を創る新たな産業が育つ

● ありたい姿

- ▶ 本県をステージに、スタートアップ起業や第二創業などが展開され、上場企業も創出されるなど、県内外から選ばれる「みなチャレ・フィールド長崎県」が実現しています。
- ▶ 最先端のデジタル技術で地域課題を克服し、県民が豊かで快適な生活を送っています。
- ▶ 県内で産み出した再生可能エネルギーを、県民や県内企業が活用し、サステナブルなくらしや企業活動を実現しています。

● ありたい姿の実現に向けた施策の方向性

- スタートアップの交流等を通じ、新たな人脈の形成・意識改革につなげ、「新しいものが生まれる」機運を醸成
- 県内企業の上場を目指した産学官金の連携による支援体制の構築
- 未来を担う人材のためのアントレプレナーシップ※1教育の推進
- 陸海空の次世代モビリティやドローンの社会実装の促進
- スマート農林水産業※2の推進
- 魅力ある再生可能エネルギーの創出・ブランド化の推進
- サステナブルな県民のくらし・企業活動の推進
- カーボンニュートラル※3の実現に向けた県内産業支援の促進

※1 アントレプレナーシップ：新事業や新商品開発など高い創造意欲を持ち、積極的に挑戦していく起業家・企業家精神を育むこと

※2 スマート農林水産業：ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農林水産業

※3 カーボンニュートラル：温室効果ガスの排出量が全体としてゼロになっている状態

4 食

豊かな自然の恵みを味わえる「美味しい！長崎」

● ありたい姿

- ▶ 食材の宝庫長崎から新鮮で豊かな食材が世界中にあふれ、その美味しさはこどもたちを笑顔にしています。
- ▶ 異国情緒あふれる潮風の下、長崎でないと出会えない味、味わえない体験がある。その時その場所だけの食が長崎県全体に満ち、食した人を笑顔にしています。
- ▶ 長崎の大地と海の恵みを食に関わる全ての人が想いをつなぎ大切にしています。

● ありたい姿の実現に向けた施策の方向性

- 長崎食材の輸出拡大に向けた、オール長崎での食材の魅力発信、需要の創出
- 食材と共に生産者の「こだわり」を届けるバリューチェーン※1づくりの推進
- 新鮮で豊かな食材の安定供給、輸出先国の規制や食習慣等に対応した産地の育成・体制構築
- とれた鮮度をそのまま消費者に届ける技術の開発と供給網の構築
- 長崎食材の特徴・特色を活かした、長崎を感じられるグルメ・売場・食事処の創出
- 快適で儲かる農林水産業の実現に向けた、グリーンな栽培技術の導入や次世代に継承できる環境整備
- 持続可能な加工・流通システム、付加価値の向上や販路拡大につながる生産・流通・販売の連携強化
- 食品ロスの削減や環境に配慮した農林水産物に対する理解促進

※1 バリューチェーン：生産、流通、販売が協力して価値を上げる価値の連鎖

5 健康

健康で生き生きと笑顔で暮らしている

● ありたい姿

- ▶ 次世代医療先進県として、デジタル化の促進などにより様々な関係機関が連携し、いつでもどこでもだれでも必要な医療を受けられています。
- ▶ シニア世代が心も身体も健康で生きがいを持って活躍し、イキイキと元気に生涯現役で仕事やボランティア活動をしています。

● ありたい姿の実現に向けた施策の方向性

- 妊娠から子育て、相談から診療までデジタルを活用した医療の推進
- 地域包括ケアシステム※1のデジタル化の推進
- オンライン診療の普及促進
- イキイキシニアライフに向けた活躍の場等のマッチング促進
- 高付加価値ヘルスケアサービスの創出などシニア世代の心と身体への健康づくりの推進
- 高齢者のデジタル活用による社会貢献活動等での活躍促進

※1 地域包括ケアシステム:高齢者が、住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される仕組み

6 施策を貫く3つの視点

ありたい姿の実現には、グローバル化の拡大やテクノロジーの進展など物事の変化が激しい時代であることを踏まえ、施策横断的に取り組む必要があります。このため、全ての施策を貫く視点として以下の3つを掲げて取り組むとともに、施策相互の連関を強め、相乗効果を創出します。

1 長崎県デジタルの変

本県は離島・半島地域を多く抱える中、人口減少や少子高齢化が全国よりも早く進み、様々な社会課題が顕在化するなど、持続的に成長を続けるための仕組みを再構築する必要があります。

そこで、本県の特長や地域課題に応じたデジタル化やDXの推進をはじめ、最先端技術を効果的に活用し、県内外からイノベーションを生む多様な人材・知・産業の集積を促し、稼ぐ地域を創り出すとともに、人手不足の解消や地理的・時間的な条件に関わらずあらゆる地域で同じような働き方を可能とする環境を整えます。

また、医療、福祉、子育て支援等の県民の生活に密着した分野のデジタル化を進め、個人のニーズに応じた最適なサービスが提供される豊かな県民の暮らしを目指します。教育分野においても、誰一人取り残されず、一人ひとりに個別最適化され創造性を育める教育ICT環境を実現し、次世代の学校・教育現場の確立を目指します。

行政においては、デジタル技術の活用により行政運営を効率化し、限られた経営資源を行政サービス提供に振り向けるとともに、デジタルマーケティングの手法を最大限に活用し、効果を検証できる質の高い行政サービスの提供を実現します。

長崎県版デジタル社会実現に向け、デジタル化を加速させ、県民生活の利便性向上と産業の活性化、行政運営の効率化を推進するため、“長崎県デジタルの変”に取り組めます。

【県民サービスの向上・産業への活用】

- 行政手続オンライン化の推進
- マイナンバーカードの普及・活用促進
- オープンデータの利活用促進
- デジタルマーケティングの推進
- AI等先端技術を活用した各産業分野における新サービス創出の促進
- 次世代モビリティやドローンの社会実装の促進
- 教育分野におけるデジタル活用の推進

【行政運営の効率化】

- テレワーク等による多様で柔軟な働き方の推進
- AI・RPA等の新たな技術を活用した業務効率化の推進
- コミュニケーションツールを活用した情報共有等による向上の推進
- 行政におけるデジタル人材の育成

2 戦略的情報発信、ブランディング

国内のみならず世界に存在感を示す「選ばれる長崎県」の実現に向け、分野横断的視点・マーケティングに基づく戦略的な情報発信に取り組むとともに、自然・歴史・文化・環境などの本県の多様な魅力へ光を当てながら、本県の総体的なイメージ向上につながるブランディングを図り、県民の皆様の自信と誇りにつなげます。

情報発信においては、推進組織として全庁的な情報発信体制を整備したうえで、情報収集や情報発信のための素材づくり、最適な広報媒体の選択などを行い、民間や関係者の皆様と連携して、伝えるべき方々に、伝えるべき情報を分かりやすくかつ確実に届けることにより、県内外の皆様方の行動変容につなげます。

ブランディングにおいては、これまで蓄積してきた本県の魅力や新たに創出する魅力に光を当てながら、情報発信と連動し、民間や関係者の皆様と連携して、他県と差別化された「選ばれる長崎県」の要素を訴求することにより、新しい「長崎ブランド」を構築していきます。

3 人材確保・育成

未来を担う子どもを社会全体で育むとともに、あらゆる分野で活躍できる教育環境の充実に取り組みます。

また、地域活力を維持していくため、年齢や性別、国籍に関わらず誰もが活躍できる地域社会をつくとともに、社会情勢の変化に対応し、柔軟な発想で課題解決や新しい価値の創造ができる人材の確保と育成を図ります。

1 分野横断・融合的な取組の推進

県民の皆様が誇りを持てる長崎県を実現するために、分野を超えた部局横断・融合的な取組を強力に進め、事業効果の最大化を図ります。また、市町、民間、大学等との連携を強化するとともに、県民の皆様との対話を通じて、新たな発想や問題意識を施策構築に取り入れ、ビジョンの実現に取り組んでいきます。

2 循環型社会への転換に向けた取組の推進

従来の大量生産・大量消費・大量廃棄の一方通行の経済システムから、資源の効率的・循環的利用を図りつつ環境に配慮した経済活動を重視する循環型経済システムへの転換が図られている中、各国で取り組まれている「持続可能な開発目標（SDGs）」の推進や、ESG投資を踏まえた新たなサービスや付加価値の提供が求められています。

そのため、本県においても、SDGsの理念などを踏まえて取組を推進することで、安心して暮らせる持続可能なまちづくりと地域活性化につなげていきます。

3 長崎県総合計画とビジョンとの関係

県政運営の基本的な方向性を示すものとして、長崎県総合計画「チェンジ&チャレンジ2025」を策定しています。同計画は、県政の概ね全分野を網羅し、産業・環境・福祉などの各分野の計画や事業立案の基本となるものです。

一方ビジョンは、「選ばれる長崎県」の実現に向けて、今後注力していきたい分野に特化して、概ね10年後のありたい姿とその実現に向けた施策の方向性をわかりやすくお示しし、様々な立場の皆様が思いを一つにして、有機的に連携しながら取組を進めるための旗印とするものです。

なお、ビジョンに掲げるありたい姿の実現に向けて、現総合計画の方向性に沿って進めるものについては、さらに力強く推進し、総合計画に反映すべきものについては、総合計画の一部見直しに盛り込むこととしております。